

市長の直言直筆 ③

クマのはなし

皆さんこんにちは！渡辺です。3回目の今回は「クマ」についてお話しします。

近年は、全国的にクマの出没が後を絶ちません。市民の皆さんも不安を抱えながら生活されていることと思います。5月には三望台シャンツェ付近で緊急銃猟を実施する事案もありました。

なぜ人里への出没が増えたのか。これには複合的な要素があるようです。

先日参加した「北海道市町村長交流セミナー」でも、テーマのひとつが「クマ問題にどう向き合うか」という内容で、講師は酪農学園大学で環境共生学類を専門とする佐藤喜和教授でした。

講話では、正確な裏付け資料とともにお話しいただき、腑に落ちる内容ばかりでしたのでご紹介します。

クマが人里に出没する理由

- ①出生地から雄の子を分散させる
 - ②子連れの雌が成雄を避ける
 - ③端境期(8～9月)のエサ不足
 - ④堅果類(ドングリ)の凶作年の頻繁化
 - ⑤人が出すゴミへの執着
 - ⑥農地にいる人の減少
 - ⑦都市部の緑地化整備
- などが要因として考えられるようです。



▲今年5月、朝日町の三望台シャンツェ付近で目撃されたヒグマ

なぜ出没が増えたのか？



上のグラフをご覧ください。出没・被害件数はドングリの凶作と相関関係にあるそうで、以前は数年ごとの周期で凶作だったものが、近年は2年周期になってきているため、隔年で被害件数が増減しているそうです。

また、被害数が2021年から急増していることも読み取れます。セミナーで私は、教授に「急増の理由は、コロナ禍で人の動きが無くなったからか」と質問したところ、大きな要因として考えられるとの回答でした。

ヒグマは基本的に人を避けようとするので、人がいない田畑や公園だけではなく、市街地でも人がいないと「自分のテリトリー」と考えるようです。

さらには田畑の大規模化・機械化がすすみ、農地に人が以前より見えなくなったことや、市街地の緑地帯が増えていることも「クマ目線」ではテリトリーとってしまう環境だと指摘がありました。

“クマ側”になって考える

佐藤教授曰く、クマ対策は人間目線ではなく「クマ目線」で考察することが重要とのことでした。

例えば、公園敷地などにクマの目撃情報があった際には、市民の皆さんの安全確保のために一時利用を制限させていただいています。ただ、極端に長い利用制限は「クマ目線」では自分のテリトリーと思わせてしまうために、適切な期間設定が必要とのことでした。

河川敷の樹木は、ヒグマの隠れ場所にならないよう現在も河川事務所と協力して伐木をすすめているところです。

こういった環境整備をはじめ、ゾーニングによる「住み分け」など、しっかりと「クマ目線」を持ちながらまちづくりをすすめてまいります。

市民の皆さんも、まずはゴミの管理など、できる対策からご協力をお願いします。